

ソーシャルワーク演習Ⅲ(3241)		大兼健寛		併修科目・必修	
				PT・OT3年	
				月曜3限	
授業のねらい	ソーシャルワーク演習Ⅲは、「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰおよびソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポート 1	総合的・包括的な支援の意義と方法について述べよ。		下書	6月10日(月)授業内
	(ポイント)	個人、集団、地域を対象とした事例を踏まえて、多様な支援対象者への専門知識・技術の適応方法について整理する。		清書	
	レポート 2				
	(ポイント)				
	科目終了試験	学修のポイント・1 個人に対するソーシャルワーク実践について 学修のポイント・2 集団に対するソーシャルワーク実践について 学修のポイント・5 災害被災者への支援について		科目終了試験 7月23日(火)実施予定	
期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表				
1	オリエンテーション、総合的・包括的な支援の意義				
2	総合的・包括的な支援の方法①				
3	総合的・包括的な支援の方法②				
4	総合的・包括的な支援の方法③				
5	総合的・包括的な支援における知識・技術				
6	清書レポート作成				
7	学修のポイント・1 個人に対するソーシャルワーク実践について				
8	1200字レポートレポート作成・締切				
9	学修のポイント・2 集団に対するソーシャルワーク実践について				
10	1200字レポートレポート作成・締切				
11	学修のポイント・5 災害被災者への支援について				
12	1200字レポートレポート作成・締切				
13	「実践」とは何か				
14	科目終了試験対策				
15	「ソーシャルワーク演習Ⅲ(3240)」科目終了試験(持ち込み不可)				
	期末試験				
成績評価	出席率	30点 80%以上、出席すること。欠席は-10点、遅刻は-3点。			
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式			
	授業内評価	20点 レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮。			
備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。				
	レポート・学修のポイントの〆切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。				

<h1 style="margin: 0;">地域福祉論(2033)</h1>	<h2 style="margin: 0;">柘植 将介</h2>	併修科目・必修
		PTOT3年
		月曜4限

授業のねらい	地域福祉の基本的な考え方について学ぶ。 地域の社会資源の理解と活用方法を理解する。 地域福祉に関わる組織や機関について理解する。
--------	--

教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。		
設 題	レポート 1	地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを1つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。	清書 6月3日(月)提出
	(ポイント)	「地域福祉ガバナンス」の考え方、「社会資源」のとりえ方について簡潔に触れた上で、「地域福祉以外の分野との機関協働」がなぜ重要なのかについてまとめること。その上で事例を1つ取り上げその事例の取組が地域に与える影響について、良い点と課題になっている点の両面から考察すること。	
	レポート 2	災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。	清書 7月1日(月)提出
	(ポイント)	「災害救助法」「災害対策基本法」等について、「災害時要配慮者支援」や「福祉避難所」を含めてまとめること。その上で、時間の経過とともに変化する被災者のニーズへの変化や、平時からの支援体制構築のための具体的な方法について、あなた自身の経験や考えも交えながらまとめること。	
	科目終了試験	学修のポイント・地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 について 学修のポイント・地域福祉の推進主体について 学修のポイント・地方行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について	科目終了試験7月23日(火) 実施予定
	期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表	

1	オリエンテーション 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 1
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 2 (学修ポイント)
3	地域福祉の推進主体について (学修ポイント)
4	地域福祉の推進主体について (学修ポイント)
5	地域福祉ガバナンスと多機関協働 1
6	地域福祉ガバナンスと多機関協働 2
7	レポート作成
8	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 I
9	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 II
10	レポート作成
11	地方行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について (学修ポイント)
12	地方行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について (学修ポイント)
13	地域福祉の考え方、歴史、動向
14	科目終了試験まとめ
15	科目終了試験
	期末テスト

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算する。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早めに提出をすることを心がけてください。 レポート・学修のポイントのメッチは厳守すること。期限を守れなかった者は、授業内評価を減点する。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。
----	--

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業療法概論(研究法)	授業形態	講義・(演習)・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	火曜・1限
担当教員	石田 敦子、伊藤 大貴				
授業概要	<p>作業療法研究とは、作業・健康・幸福およびその関連性を探求・検証する事です。作業療法研究の成果は、作業療法実践の根拠や社会における作業療法の必要性を示すことに繋がります。作業中心、クライアント中心、理論(エビデンス)中心を基盤にした研究は、作業療法学の専門性の発展に貢献します。また研究は自ら新たな知見を創り出すことも非常に重要ですが、現在の困り事や疑問について、必要な情報を過去の研究からリサーチする能力も非常に重要となり、それらの方法について学んでいきます。</p>				
学習目標	<p>①研究実施に必要な文献を適切に選択し、先行研究の研究デザインを説明できる ②先行研究の研究結果を文献レビューとしてまとめることができる ③研究目的に合わせた研究手法(デザイン、種類、分析)を掲載した研究計画書を作成できる ④研究計画に沿った研究実施が行える ⑤研究成果を分かりやすくまとめ、発表することができる</p>				
回数					担当教員
1回目	研究とは 研究テーマの絞り込み				石田、伊藤
2回目	文献レビューの作成① 文献検索と文献の種類、書き方				石田、伊藤
3回目	文献レビューの作成② 研究デザイン				石田、伊藤
4回目	文献レビューの作成③ 研究方法				石田、伊藤
5回目	文献レビューの作成④ 結果と結論のまとめ				石田、伊藤
6回目	文献レビューの作成⑤ (文献レビュー:5/14 18時まで提出)				石田、伊藤
7回目	研究計画① 研究倫理、先行研究のまとめの記載				石田、伊藤
8回目	研究計画② 量的研究(対象者の比較、前後比較)の実施				石田、伊藤
9回目	研究計画③ 質的研究(インタビュー、KJ法)の実施				石田、伊藤
10回目	研究計画④ その他研究手法(文献レビュー、当事者研究)、研究方法の記載				石田、伊藤
11回目	研究計画⑤ 統計手法、研究スケジュールの記載				石田、伊藤
12回目	研究、分析実施① (研究計画書:6/25 18時まで提出)				石田、伊藤
13回目	研究、分析実施②				石田、伊藤
14回目	研究、分析実施③				石田、伊藤
15回目	研究、分析実施④				石田、伊藤
教科書及び参考書	随時資料を配布します。				
成績評価	<p>文献レビュー25%、研究計画書35%、研究発表40% 欠席や遅刻は減点扱いとします。授業態度は成績評価に含めます。 文献レビュー、計画書、研究発表資料は提出日までに何度も添削を受ける事が可能です。期日より前もって、自分で納得いくものが出来るように、報告・連絡・相談をし取り組んでください。計画書等が合格水準に達していない場合には研究を認めない為、単位未認定となる可能性がありますので、注意してください。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>医学系の中でも、作業療法は脳機能や心理面など目に見えない部分を対象としています。また、薬物療法や外科的治療などと比べると「作業」を用いることが患者さんへどのような効果をもたらすのか、他分野からは分かりづらいとされています。そのため、作業療法士は患者さんへアプローチするだけでなく、他職種や社会が作業療法に納得し必要だと感じてもらうために、効果を発信していくという使命があります。研究法では、一人ずつそれぞれの研究テーマを追跡してもらいます。学生のうちから発表が可能な学会などもありますので、ぜひ発表を目指して頑張ってください！</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>石田:臨床の傍ら回復期病院の実態調査や臨床研究を行い、大学院では脳機能計測や動作解析装置を使用したIADL動作解析、工学部との合同研究など多様な研究を行いました。国内外での論文発表、学会発表経験もあります。現在も国立長寿医療研究センターで研究補助員として研究を行っています。学生の持ち寄りアイデアは非常にユニークで驚かされます。合同研究を行うつもりで授業をさせていただきます。 伊藤:総合病院にて幅広い治療業務だけでなく、管理業務や後輩指導を担当。運転支援や訪問リハビリテーションの立ち上げに携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する研究を複数実施。日本作業療法学会をはじめ、日本高次脳機能障害学会、日本リハビリテーション医学会などでも学会発表を行う。2021年、認定作業療法士を取得。自身の経験談も交えて、研究の楽しさを伝えていけたらと思っています。</p>					

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業療法評価法Ⅲ	授業形態	講義・ 演習 ・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	火曜・2限
担当教員	日比和宏				
授業概要	<p>作業療法の対象者を治療するためには明確な目標を立て治療プログラムを作成することが必要である。そのためには対象者の状態を把握するために検査や測定を行い、結果をまとめ適切な治療プログラムを考える必要がある。</p> <p>身体障害領域における様々な検査・測定の知識・技術を身につけ、正確かつ適切な時間内に評価を実施できるよう実技中心に行います。</p>				
学習目標	<p>模擬患者様に対し、正確かつ適切な時間内に関節可動域測定が実施できる</p> <p>模擬患者様に対し、正確かつ適切な時間内に徒手筋力検査が実施できる</p> <p>模擬患者様の姿勢や動作を観察し必要な検査部位を選択し実施することができる。</p>				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、関節可動域測定(上肢)②(P62～P123)				日比
2回目	関節可動域測定(上肢)②(P62～P123)				日比
3回目	関節可動域測定(下肢)②(P154～P211)				日比
4回目	関節可動域測定(下肢)②(P154～P211)				日比
5回目	関節可動域測定(手指・頸部・体幹)②(P14～P61) (P124～P152)				日比
6回目	実技テスト1 (25%)				日比
7回目	徒手筋力検査(上肢)③(P66～P157)				日比
8回目	徒手筋力検査(上肢)③(P66～P157)				日比
9回目	徒手筋力検査(下肢)③(P246～P337)				日比
10回目	徒手筋力検査(下肢)③(P246～P337)				日比
11回目	徒手筋力検査(肩甲帯・体幹)③(P36～P64、P356～P385)				日比
12回目	実技テスト2 (25%)				日比
13回目	動作観察からの評価				日比
14回目	動作観察からの評価				日比
15回目	実技テスト3 (50%)				日比
教科書及び参考書	<p>テキスト① リハビリテーション基礎評価学 第2版</p> <p>テキスト② 実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM-測定からエクササイズまで ヒューマン・プレス</p> <p>テキスト③ MMT メディカルビュー</p>				
成績評価	<p>実技テスト(100%) 欠席・遅刻は減点</p> <p>授業態度も考慮</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>実技授業が中心になりますので半袖半ズボンなど動きやすい服装で参加してください。評価実習に向けて主要な評価を正確かつ迅速に検査・測定できるよう授業時間だけでなく時間外にも練習し技術を定着させましょう。</p> <p>実際に作業療法士として働く中で、評価に時間はかけられません。正確に短時間で必要な評価を実施できるようになるには反復練習が必須です。リスク管理しながら対象者の動作分析をし、評価できるようになるにはクラスメイトと練習するだけでなく教員にアポイントメントをとり模擬テストを受けるなどして高いレベルでの技術習得を図りましょう。</p> <p>実技テスト1は関節可動域測定を、実技テスト2は徒手筋力検査を実施していただきます。</p> <p>実技テスト3は模擬患者様の動作を観察し必要と思われる部位を選択し実施していただきます。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>整形外科中心の病院で急性期から維持期まであらゆる疾患、特に上肢の整形疾患、脳血管疾患を中心に治療した経験を持つ。現場での経験をもとに実践的な評価技術を提供する。</p>					

2024年度前期 理学・作業名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅲ(発達障害Ⅰ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	火曜・3限
担当教員	杉野 潤也、伊藤 大貴				
授業概要	作業療法の4大領域として発達障害領域があります。この授業では、発達障害とはどのような障害かを理解し、発達障害領域の対象となる主な疾患・障害についての基本的な知識と障害の特性を学習します。また、発達領域の作業療法評価の視点および必要な検査について実践しながら学んでいきます。発達障害領域に関する理解を深め、多角的に捉えられる作業療法士を目指しましょう。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害とは何か説明できる。 ・発達障害領域の対象疾患・障害について説明できる。 ・対象疾患・障害の特性を知ったうえで、発達障害領域における作業療法の目的や役割を説明できる。 ・各検査の目的、概要を説明できる。 				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、Introduction P1～6				杉野潤也
2回目	子どもの発達と作業療法1(姿勢・運動発達とその背景) P7～16				杉野潤也
3回目	子どもの発達と作業療法2(感覚統合機能の発達) P18～20				杉野潤也
4回目	子どもの発達と作業療法3(認知・思考機能の発達) P21～23				杉野潤也
5回目	子どもの発達と作業療法4(コミュニケーション機能の発達) P24～26				杉野潤也
6回目	子どもの発達と作業療法5(子どもの発達と遊び) P27～32				杉野潤也
7回目	子どもの発達と作業療法6(セルフケアの発達と遊び) P33～35				杉野潤也
8回目	子どもの発達と作業療法7(作業の見方-作業の発達と変容) P36～46				杉野潤也
9回目	振り返り(子どもの発達と作業療法1～7)		※単元テスト①		杉野潤也
10回目	評価1(総論、情報収集および面接、観察の視点) P47～56				伊藤大貴
11回目	評価2(発達像を把握するための検査①) P57～62				伊藤大貴
12回目	評価3(発達像を把握するための検査②) P57～62				伊藤大貴
13回目	評価4(発達像を把握するための検査③) P57～62				伊藤大貴
14回目	評価5(評価結果の分析と解釈) P63～68				伊藤大貴
15回目	振り返り(評価1～5)		※単元テスト②		伊藤大貴
教科書及び参考書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 第3版				
成績評価	<p>単元テスト①・②:20点×2 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。</p> <p>単元テスト①は1回目～8回目、単元テスト②は10回目～14回目の授業内容から出題します。期末テストは全範囲ですが、単元テストと授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出题する予定です。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>この講義は前期後期でそれぞれ実施します。前期に発達障害の概要や対象疾患、評価の流れ、発達検査について学習することは、後期に学ぶ障害に対するアプローチに繋がります。この授業を通し、発達障害領域の基礎を固めましょう。子どもの発達段階を学ぶことは、成長過程に合わせた評価を実施することに繋がります。2年次の人間発達学で学んだ内容を適宜復習し、理解を深めてください。テストに関しては、毎授業で予習復習を実施し、テスト前に慌てることなく準備しましょう。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>一般病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの約11年間の臨床経験をもとに発達障害領域の作業療法について講義を行う。(杉野)</p> <p>約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として関わってきた。小児から高齢者まで幅広い対象者に対し治療を行ってきた。(伊藤)</p>					

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	H・R	学科・年次	OT・3年
		曜日・時限	火曜・4限
担当教員	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也		
授業概要	学校生活を円滑にすること、コミュニケーション能力を身につけることを目的に、学生心得を用いた読み合わせや学園祭準備などを行う。また、2年次の目標を明確にすることを目的に個別面談を実施する。そのほか、臨床実習、国家試験にて必要な基礎医学の知識を身につける。		
学習目標	① 「学生心得」に従って、充実した学校生活を送ることができる。 ② 作業療法士を目指すクラスの一員として、責任を持った行動ができる。 ③ 国家試験や臨床で必要となる基礎医学に対する知識を身に付ける。		
回数		担当教員	
1回目	始業式、オリエンテーション(2年次の流れ、目標確認) 役割決め	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
2回目	学生心得の確認 個別面談	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
3回目	連絡事項 確認事項 個別面談	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
4回目	連絡事項 確認事項 個別面談	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
5回目	国家試験対策授業(基礎医学)	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
6回目	国家試験対策授業(基礎医学)	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
7回目	国家試験対策授業(基礎医学)	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
8回目	国家試験対策授業(基礎医学)	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
9回目	国家試験対策授業(基礎医学)	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
10回目	学園祭準備	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
11回目	学園祭準備	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
12回目	学園祭準備	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
13回目	学園祭準備	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
14回目	学園祭準備	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
15回目	連絡事項 確認事項 期末試験対策	中村千紘、藤野頼貴、伊藤大貴、石田敦子、杉野潤也	
教科書及び参考書	必要に応じて「学生心得」、学事予定など。適宜、指示に従うこと。 国家試験対策授業:PT・OT基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学)/南江堂		
成績評価			
学生へのメッセージ(受講上の留意点)			
年次の予定、学校生活を送る上で守る規則やルールについて学生心得を用いて確認します。これは、社会人・作業療法士としてのマナー、ルールともなります。しっかりと理解をし、実践できるようになりましょう。 学校生活を支障なく送れるということは、学業についてもきちんと知識が身につくということです。ですから、ホームルームでは学校生活に関する状況把握だけではなく、学業面での状況把握を行い、全員が躓くことなく国家試験合格を目指せるよう対応していきます。 国家試験対策授業では、1年次に学んだ基礎医学(解剖・運動・生理)や、臨床医学(リハビリテーション医学・臨床心理学など)を中心にテキストを用いて対策していきます。早めに対策をしていくことで、4年次に備えたスタートダッシュに繋がりますし、臨床実習での基礎知識不足に対する対策にもなります。授業前後にて範囲を指定していきますので、予習・復習をおこない知識として定着するように行動していきましょう。			

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅱ(精神障害Ⅰ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	水曜・1,2限
担当教員	中村 千紘				
授業概要	精神科作業療法を提供する際には、治療の目的や治療構造を明確化することが大切です。また、治療者として対象者と関わる中で評価ができる距離感で関係を築く必要があるため、治療的対応方法についても適切に知る必要があります。本講義では、疾患別作業療法の状態評価ならびに回復段階ごとの治療目標と治療アプローチについて学びます。自身をどのように治療道具として活用できるか、考えながら受講してください。				
学習目標	① こころの構造と防衛機制について説明できる。 ② 治療的対応について説明できる。 ③ 各疾患を患うことによる生活機能について説明できる。 ④ 各疾患に対する作業療法について説明できる。				
回数				担当教員	
1回目	オリエンテーション 作業療法の治療構造と治療的態度(②P142-146)			中村千紘	
2回目	作業療法が行われる場(①P216-219 ②P157-173)			中村千紘	
3回目	こころの構造と防衛機制①(③P.28-32)			中村千紘	
4回目	防衛機制②(③P.28-32)			中村千紘	
5回目	治療契約と構造の重要性、治療者-患者関係の取り方、転移・逆転移(③P.40-48)			中村千紘	
6回目	精神認知機能への作業療法の基本原則(①P.268-269)			中村千紘	
7回目	統合失調症スペクトラムと生活機能障害(①P.269-273)			中村千紘	
8回目	統合失調症スペクトラムと作業療法①(①P.273-278)			中村千紘	
9回目	統合失調症スペクトラムと作業療法②(①P.273-278)			中村千紘	
10回目	気分障害と生活機能(①P.278-282)			中村千紘	
11回目	気分障害と作業療法①(①P.282-285)			中村千紘	
12回目	気分障害と作業療法②(①P.282-285)			中村千紘	
13回目	神経症圏の精神認知機能障害(①P.286-289)			中村千紘	
14回目	神経症圏の作業療法①(①P.288-290)			中村千紘	
15回目	神経症圏の作業療法②(①P.288-290)			中村千紘	
16回目	摂食障害と生活機能(①P.290-293)			中村千紘	
17回目	摂食障害の作業療法①(P.294-296)			中村千紘	
18回目	摂食障害の作業療法②(P.294-296)			中村千紘	
19回目	物質関連障害と生活機能(①P.296-298)			中村千紘	
20回目	物質関連障害と作業療法①(①P.298-300)			中村千紘	
21回目	物質関連障害と作業療法②(①P.298-300)			中村千紘	
22回目	パーソナリティ障害と生活機能(①P.300-302)			中村千紘	
23回目	パーソナリティ障害と作業療法①(①P.302-304)			中村千紘	
24回目	パーソナリティ障害と作業療法②(①P.302-304)			中村千紘	
25回目	自閉症スペクトラム障害と生活機能(①P.304-308)			中村千紘	
26回目	自閉症スペクトラム障害と作業療法(①P.308-310)			中村千紘	
27回目	注意欠陥多動性障害と生活機能(①P.311-313)			中村千紘	
28回目	注意欠陥多動性障害と作業療法(①P.313-315)			中村千紘	
29回目	神経認知障害と作業療法(①P.316-319)			中村千紘	
30回目	まとめ			中村千紘	
教科書及び参考書	① 精神障害と作業療法 病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践/三輪書店 ② 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学/MEDICAL VIEW ③ 精神医学テキスト(改定第4版)/南江堂				
成績評価	確認小テスト40%(20%×2回) 期末試験 60% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
本講義では、精神障害の作業療法について各疾患の特徴、各回復段階ごとの症状等の基本を伝えます。精神領域に対応できるのは、作業療法士の強みです。また、小児領域、身体領域、高齢者領域を診る上でもメンタル面がみれることで患者様のリハビリ意欲が変わります。学んだことは身近な人と結びつくことも多いと思います。各疾患のあとに確認テストを実施します。欠席すると試験が受けられませんので、体調を整えて小テストにも必ず出席するように心がけてください。また、小テストは40%割合で成績評価に含めますので、事前にテスト勉強をして臨んでください。 後期の精神治療学に結びつくベースとなる大切な講義ですので、理解が不十分なところは質問等で疑問の解決を図るようにしてください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
精神科病院において、病棟作業療法、訪問看護、デイナイトケアを担当する。その後、メンタルクリニックにてリワーク・デイケアの立ち上げを担当した。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。					

権利擁護と成年後見(3191)		吉安功一		併修科目・必修	
				PTOT3年	
				水曜3限	
授業のねらい	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポート1	ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。	下書	5月29日	
	(ポイント)	社会福祉士、精神保健福祉士が成年後見活動を行う上で、「身上監護」を中核に位置づけていくことが課題となる。権利擁護の具現化としての成年後見制度の位置づけと、ソーシャルワーカーとして後見活動を考察すること。	清書		
	科目終了試験	学修のポイント1 法定後見制度について 学修のポイント4 成年後見制度の最近の動向と課題について 学修のポイント6 権利擁護にかかわる組織・団体について	7月17日		
	期末試験・スクーリング終了試験	詳細は、後日発表			
1	オリエンテーション				
2	レポート対策(相談援助の活動と法)				
3	レポート対策(成年後見制度:成年後見、保佐・補助の概要、申立て)				
4	レポート対策(成年後見制度:成年後見制度の義務と責任、動向について)				
5	レポート対策(成年後見制度:SWと権利擁護、日常生活自立支援事業について)				
6	レポート対策(レポート清書作成)				
7	学修のポイント1対策(法定後見制度について)				
8	学修のポイント1対策(法定後見制度について)				
9	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題について)				
10	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題について)				
11	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)				
12	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)				
13	対象種別・対策領域に応じた権利擁護活動の実際 ※事例を通じて				
14	科目終了試験対策				
15	科目終了試験				
	期末試験				
成績 評価	出席率	30点	80%以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。		
	期末試験	50点	持ち込み:可、論述式		
	授業内評価	20点	レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮して加算する。		
備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。 レポート・学修のポイントのめりは厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。				

社会福祉運営管理論(2502)		吉安 功一		併修科目・必修	
				PTOT3年	
				水曜4限	
授業のねらい	今日、地域社会においては福祉サービスに対する様々なニーズが存在し、また新たなニーズも生まれている。こうした多種多様なニーズに対しては現場職員の個人的スキル任せでは到底対応できるはずがなく、同じ理念を持つ人々が結集して組織を作り、そこにヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を結集し、調整し、配分し、多くのニーズに応えていくこと、すなわち経営管理というものが要求されてくる。したがって今日では、地域社会の福祉サービスの実践にとっては福祉サービスを提供する組織とそこにおける経営管理の在り方について理解し、福祉サービスの経営管理を「利用者を取り巻く環境とのかかわりあいを通しての間接的な社会福祉援助技術の実践」という位置づけで理解・学修していく。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポート 1	福祉サービスにおける組織と経営について述べよ	下書	5月29日	
	(ポイント)	福祉サービスとは何か、組織とは何か、経営とは何かの概念整理をすること。民間企業も含めたさまざまな主体の参入と規制緩和が進むこととなったが、新たな時代における福祉サービスの組織とその新たな視点からの必要性を考察する。	清書		
	科目終了試験	学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて 学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて 学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について	7月17日		
	期末試験・スクーリング終了試験	詳細は、後日発表			
1	オリエンテーション ・ 福祉サービスにおける組織と経営 (はじめに)				
2	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営①				
3	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営②				
4	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営③				
5	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営④				
6	レポート対策 レポート清書作成				
7	学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて				
8	学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて				
9	学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて				
10	学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて				
11	学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について				
12	学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について				
13	働きやすい労働環境の整備・これからの福祉運営				
14	科目終了試験 対策				
15	科目終了試験				
期末テスト					
成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。			
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式			
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算する。			
備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。				
	レポート・学修のポイントの〆切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。				

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	義肢装具学 I	授業 形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	木曜日・1・2限
担当教員	廣島 淳				
授業概要	義肢装具の変遷、近年の適応、名称、種類及び構造、機能評価法を学び、義肢を使用する切断患者のリハビリテーションや装具を使用するリハビリテーションの実際について学習する。				
学習目標	① 装具の種類、構造、機能、適応について説明できる。 ② 義肢の切断部位に対する種類、構造、機能、適応について説明できる。 ③ 各疾患の特徴、障害像を説明できる。 ④ 各疾患に対して使用する装具のデザインと目的、必要な評価、使用法を説明できる。				
回数					担当教員
1回目	義肢装具総論、リハビリテーションにおける義肢装具の役割 P.190～194				廣島 淳
2回目	義肢装具士、作業療法士、理学療法士及び医療従事者の関連 P.65～79 P.190～194				廣島 淳
3回目	義肢装具の支給体系、健康保険等のしくみについて P.18				廣島 淳
4回目	体幹装具概論 体幹装具に関する基礎知識と症例に対する装具療法の展開について学習する。P.194、P.276～277、P.348				廣島 淳
5回目	" 仙腸装具、腰椎装具、胸椎装具、頸椎装具について学習する。 P.194、P.197、P.272～287、P.292				廣島 淳
6回目	上肢装具概論 指装具、MP装具について学習する。P.192、P.197～199、P.209、P.300～302、P.320～331、P.348～350				廣島 淳
7回目	" 対立装具、手関節装具、把持装具について学習する。P.192、P.214、P.300～302、P.307～319、P.332～341、P.348～350、P.357～P.358				廣島 淳
8回目	" 肘装具、肩装具について学習する。P.192、P.207～209、P.213～214、P.248～249、P.257～259、P.298、P.300、P.348～349				廣島 淳
9回目	下肢装具概論 足底装具について学習する。P.193、P.265～P.271、P.298～299、P.346～348				廣島 淳
10回目	" 短下肢装具、膝装具について学習する。P.193、P.210～214、P.248～256、P.302～304、P.342～346、P.357～358				廣島 淳
11回目	" 長下肢装具、小児用装具について学習する。P.193、P.201～204、P.209～213、P.227～235、P.252、P.260～270、P.357～358				廣島 淳
12回目	義手概論 義手の基礎知識について学習する。P.65～68、P.70～83、P.357～358				廣島 淳
13回目	" 義手の基本構造について学習する。P.83～119				廣島 淳
14回目	義足概論 義足の基礎知識について学習する。P.70～79、P.120～188				廣島 淳
15回目	" 義足の基本構造について学習する。P.120～188、P.357～358				廣島 淳
教科書及び 参考書	義肢装具学（医学書院） 義肢装具のチェックポイント（医学書院）				
成績評価	筆記試験(80%) 小テスト(10%) 授業態度(10%) で評価する。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>授業では、教材として実物の義肢・装具を使用し回覧しますので、よく観察し、また装着したりして、質感や装着の仕方、ベルトの位置などに注意して理解を深めて下さい。</p> <p>また、睡魔に襲われた時には、教室の横に立って聞くなり、トイレに行って顔を洗うなり、自分自身で工夫してみてください。</p> <p>義肢・装具に興味を持ち、疑問点は積極的に質問して下さい。</p> <p style="text-align: center;">(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。</p>					
医療機関等で義肢装具士として、現在も活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。					

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅱ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	木曜・3、4限
担当教員	石田 敦子、伊藤 大貴				
授業概要	身体障害領域において作業療法分野で関わる疾患について、疾患特性と疾患ごとの作業療法評価、治療法について学習します。この授業では、座学主体ではなく、実技やグループワークなど演習主体の授業となります。知識だけでなく、臨床実習に必要な技術も十分に習得できるよう体を動かしながら学んでいきましょう。				
学習目標	1. 疾患の病態について説明することができる 2. 疾患に必要な作業療法評価を挙げ、評価結果をICFにまとめることができる 3. 治療計画の立案を行うことができる 4. グループワーク内で分担作業を行い、成果を発表することができる				
回数				担当教員	
1回目	オリエンテーション 脳血管障害① 脳血管障害の病型・臨床症状と医学的治療 p.176-182			伊藤	
2回目	頭部外傷 頭部外傷の病態、OT評価、治療プログラム P203-213			伊藤	
3回目	脳血管障害② OT評価と目標設定 p.182-185			伊藤	
4回目	脳血管障害③ 急性期の治療プログラム p.185-189			伊藤	
5回目	脳血管障害④ 急性期の治療実践			伊藤	
6回目	脳血管障害④ 回復期の治療プログラム① p.189-194			伊藤	
7回目	脳血管障害⑤ 回復期の治療実践①(機能的アプローチ編)			伊藤	
8回目	脳血管障害⑥ 回復期の治療プログラム②、生活期の治療プログラム p.194-201			伊藤	
9回目	脳血管障害⑦ 回復期の治療実践②(基本動作編)			伊藤	
10回目	脳血管障害⑧ 回復期の治療実践③(ADL編)			伊藤	
11回目	高次脳機能障害① 配布資料 注意障害、記憶障害の評価と治療 単元テスト			伊藤	
12回目	高次脳機能障害② 評価・治療実践(注意障害・記憶障害)			伊藤	
13回目	高次脳機能障害③ 配布資料 半側空間無視、遂行機能障害の評価と治療			伊藤	
14回目	高次脳機能障害④ 評価・治療実践(半側空間無視、遂行機能障害)			伊藤	
15回目	パフォーマンステスト①			石田・伊藤	
16回目	パフォーマンステスト②			石田・伊藤	
17回目	関節リウマチ① 疾患の病態～変形の種類 作評p.349-352 身作p.239-245 病みえ①p.375-385			石田	
18回目	関節リウマチ② 作業療法評価、治療 作評p.352-360 身作p.245-251			石田	
19回目	関節リウマチ③ ADL、QOL、自助具、装具療法 作評p.361-369 身作p.251-254			石田	
20回目	グループワーク(関節リウマチ)① 自助具 グループ分け・作品の立案			石田	
21回目	グループワーク(関節リウマチ)② 自助具制作、プレゼン準備			石田	
22回目	自助具発表会			石田	
23回目	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎 p.273-278			伊藤	
24回目	悪性腫瘍 p.460-466			石田	
25回目	ギランバレー症候群① p.358-364			伊藤	
26回目	ギランバレー症候群② p.358-365			伊藤	
27回目	多発性硬化症① p.365-371			伊藤	
28回目	多発性硬化症② p.365-371			伊藤	
29回目	重症筋無力症 p.373-377			伊藤	
30回目	まとめ			石田・伊藤	
教科書及び参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版/医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/医学書院 病気がみえる⑦脳・神経/メディックメディア 病気がみえる⑩整形外科/メディックメディア				
成績評価	パフォーマンステスト:20点 単元テスト:10点 発表:10点 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。 パフォーマンステストは脳血管障害における治療技術(機能的アプローチ・基本動作・ADL)について説明、実践してもらいます。 自己学習としては、教科書該当範囲の予習復習やグループワークの際の課題分担などが推奨されます。わからない部分については、オフィスアワーを活用して質問に来てください。月曜授業後をオフィスアワーとしています。それ以外の時間の質問についてはアポイントをもらって時間をとって対応します。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
3年次では臨床評価実習があります。実際に患者様の身体を触って評価・治療するチャンスです。この授業では、身体障害分野の疾患について病態の確認や疾患ごとの評価、治療方法について学習を行い、治療技術を習得することができます。学生同士で評価・治療をし合うことで、実習に向けて技を磨いてほしいと思います。自己学習としては、教科書該当範囲の予習復習やグループワークの際の課題分担などが推奨されます。わからない部分については、オフィスアワーを活用して質問に来てください。月曜授業後をオフィスアワーとしています。それ以外の時間の質問についてはアポイントをもらって時間をとって対応します。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
身障領域、地域領域の経験があり、特に在宅での自立生活に向けて福祉用具の選定や評価を実施してきました。疾患特性を踏まえた自助具作成を通して、具体的な対象者をイメージしながら支援する経験を積んでみたいと思っています。(石田) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。					

カウンセリング演習(2321)	平石 太一	併修科目・必修
		PTOT3年
		金曜1限

授業のねらい	カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法(認知行動療法)の三つを中心に学修していく。
--------	--

教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。			
設 題	レポート 1	カウンセリングの歴史と課題について述べ、これからのカウンセラーに必要な資質とは何か述べよ。	清書	5月24日(金)
	(ポイント)	助言指導・職業指導から始まったカウンセリングの歴史を概観し、その課題に迫ること。また、カウンセリングはどうあるべきかを考え、それはどういった訓練から作られていくのかを考察すること。		
	レポート 2	現代人の生活とカウンセリングについて考え、カウンセリングがどうあるべきかを述べよ。	清書	6月21日(金)
	(ポイント)	現代の社会状況を捉え、何故カウンセリングが必要なのか、カウンセリングがどのような形で、どういったことに役立っているのか考察すること。		
科目終了試験	学修のポイント1・交流分析について 学修のポイント2・クライアント中心カウンセリングについて 学修のポイント3・精神分析的カウンセリングについて		科目終了試験7月19日(金) 実施予定	
期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表			

1	オリエンテーション
2	カウンセリングが必要なとき
3	自分を知る・相手を知る
4	カウンセリングとは1
5	カウンセリングとは2
6	クライアント中心療法
7	精神分析
8	認知行動療法
9	カウンセリングに関するさまざまな理論
10	カウンセリングと現代の問題
11	さまざまなクライアントに対する対応
12	心の成長とは1
13	心の成長とは2
14	まとめ
15	科目終了試験
	期末テスト

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算する。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。 レポート・学修のポイントのべ切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。
----	--

ソーシャルワークの理論と方法 II (3400)	大兼健寛	併修科目・必修
		PT・OT3年
		金曜2限

授業のねらい
 ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱えている問題の複雑化・多様化に対応するため、地域共生社会の実現に向け、ソーシャルワーカーには、さまざまな実践が求められる。本科目では、総合的かつ包括的な支援の概念からその展開までを把握してもらい、さらに援助関係の形成方法や留意点、ネットワークの形成、社会資源の活用・調整・開発、カンファレンスその他、ソーシャルワークに関連する技法(ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、プレゼンテーションなど)についての理解を、多職種との関連も含めて理解することを目的とする。

教科書・資料
 大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。

設 題	レポート 1 (ポイント)	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法や留意点について述べよ。 ①援助関係の形成方法と留意点について説明する。 ②援助関係形成におけるコミュニケーションとラポールの意義と方法について説明する。	下書	
	レポート 2 (ポイント)	社会資源の開発について述べよ。 ジェネラリスト・ソーシャルにおける社会資源開発の捉え方について説明し、社会資源開発のさまざまな方法、社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルについて説明すること。	清書	レポート締切 5月17日(金)授業内
	科目終了試験	学修のポイント・1 総合的かつ包括的な支援の考え方について 学修のポイント・4 ソーシャルワーク実践と社会資源の関係について 学修のポイント・6 ネゴシエーションについて		科目終了試験7月19日(金) 実施予定
	期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表		

- 1 総合的かつ包括的支援とは？
 - 2 ソーシャルワークにおける援助関係の形成①
 - 3 ソーシャルワークにおける援助関係の形成②
 - 4 清書レポート作成
 - 5 学修のポイント・1 総合的かつ包括的な支援の考え方について/1250字レポート作成
 - 6 社会資源のソーシャルワーク的語義と意義
 - 7 社会資源の開発について①
 - 8 社会資源の開発について②
 - 9 社会資源の関係について③
 - 10 清書レポート作成
 - 11 学修のポイント・2 ソーシャルワーク実践と社会資源の関係について/1250字レポート作成
 - 12 学修のポイント・6 ネゴシエーションについて
 - 13 1250字レポート作成
 - 14 科目終了試験対策
 - 15 「ソーシャルワークの理論と方法 II (3400)」科目終了試験(持ち込み不可)
- 期末試験

成績評価	出席率	30点 80%以上、出席すること。欠席-10点、遅刻は-3点。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮。

備考
 授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。
 レポート・学修のポイントの〆切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。

2024年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅰ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・3限
担当教員	藤野 頼貴、石田 敦子				
授業概要	老年期障害の対象者の中には、これまで学習した様々な疾患や障害を複数もっている方もいれば、病気やケガの既往がないにもかかわらず障害を抱えている方もいます。また、生活歴や時代などその人の背景は非常に複雑です。対象者がどのように人生を歩み、現在は何のような生活を送っているかということも評価の一環です。前期では高齢者の特徴や社会制度、評価方法を学んでいきます。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能、精神機能、人格の加齢変化を説明することができる ・加齢変化の特徴を踏まえて、高齢者の活動・参加レベルの特徴を述べることができる ・認知症、廃用症候群の病態を説明できる ・対象者に合わせて評価計画の立案が行える ・老年期に使用する評価を正しく使用し、結果をSOAPにまとめることができる ・評価結果を統合して発表できる 				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、老年期作業療法の枠組み p. 2-12				石田・藤野
2回目	老年期作業療法の対象 p. 14-25				石田・藤野
3回目	老年期作業療法の制度的位置づけと実施形態 p. 28-48				石田・藤野
4回目	老年期とはどのような時期か① 加齢変化について p. 50-72				石田・藤野
5回目	老年期とはどのような時期か② 認知症について p. 72-78 VR?				石田・藤野
6回目	老年期とはどのような時期か③ 廃用症候群について p. 79-82 単元テスト(p. 2-78)				石田・藤野
7回目	評価① 情報収集、面接、観察 p. 84-92				石田・藤野
8回目	評価② ADL/IADL、QOL、身体機能評価 p. 93-99				石田・藤野
9回目	評価③ 認知機能、精神・心理機能、介護負担の評価 p. 99-108				石田・藤野
10回目	症例検討① 評価計画作成、実施				石田・藤野
11回目	症例検討② 評価実施、記録				石田・藤野
12回目	症例検討③ 評価のまとめ				石田・藤野
13回目	症例検討④ 症例検討発表				石田・藤野
14回目	介護家族とのかかわり p. 196-208				石田・藤野
15回目	高齢者の人権と権利擁護 p. 224-231 まとめ				石田・藤野
教科書及び参考書	老年期の作業療法 改定第3版/三輪書店				
成績評価	単元テスト20% 症例検討20% 期末試験60% 欠席や遅刻は減点扱いとします。授業態度についても成績評価に含めます。				

学生へのメッセージ(受講上の留意点)

老年期作業療法では、これまで1・2年生で習得した基礎医学・臨床医学の知識とともに、同時に学習している身体・精神。第6回ではVRを装着した認知症体験を通して、様々な認知症の特徴や認知症者の思いを学んでほしいと思います。10回目～13回目は症例検討です。必要な情報収集や評価について計画的に立案して実践してください。最後に評価結果をまとめ、グループで発表を行ってもらう予定です。得られた情報を組み合わせながら対象者の生活が捉えられているか何度も確認するようにしてください。発表まで何でもフィードバックが可能ですので、積極的にアポイントを取り、より良いものを作り上げられるようにしてください。期末試験は単元テストの範囲外から多く出題します。テスト前に範囲の振り返りは行いませんので、1つ1つの授業で重要だと思ふ箇所は随時確認してください。

(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。

藤野: 認知症治療病棟・重度認知症デイケア・訪問看護からのリハビリテーション・デイサービスにて勤務し、認知症をはじめとする高齢者へのリハビリテーションに従事してきました。また地域などでも認知症カフェ等での講師を行ってきた為、医学的リハビリテーションのみならず、予防領域においても地域包括ケアシステムの一役を担えるように授業を展開します。
石田: 高齢者施設での訪問看護ステーションでリハビリチームをまとめ、作業療法士としては本人、家族、他職種と共に活動・参加に焦点を当てたアプローチを実施してきました。加齢によって失われる機能だけに注目するのではなく、経験を重ねた年長者に対して尊敬の気持ちで接することができるようコミュニケーションのコツや生活スタイルの着目点などを伝えていきたいと思っています。

2024年度前期 理学・作業名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学 I (身体障害 I)	授業形態	講義 演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・4限
担当教員	杉野潤也				
授業概要	この授業では、身体機能作業療法の基本的な治療原理と治療方法を理解し、各疾患、障害に対する作業療法を考えるための土台作りをしていきます。エビデンスベースの治療が実践できるように知識・技術を学んでいきましょう。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトムアップアプローチとトップダウンアプローチの評価・治療方法を説明することが出来る ・身体機能作業療法のプロセスを説明することが出来る ・身体機能作業療法の様々なアプローチ方法を説明することが出来る ・作業療法の治療場面でのリスク管理を説明することが出来る 				
回数					担当教員
1回目	身体機能作業療法学の基礎: 1, 2目的と方法、対象 P4~P13				杉野潤也
2回目	身体機能作業療法学の基礎: 3枠組み P14~P33				杉野潤也
3回目	身体機能作業療法学の基礎: 3枠組み リスク管理 P33~P44				杉野潤也
4回目	身体機能作業療法学の基礎: 4実践 P45~P56				杉野潤也
5回目	治療原理1 対象者とセラピストのためのボディメカニクス P60~P69				杉野潤也
6回目	治療原理2 運動制御理論と運動学習 P70~P76				杉野潤也
7回目	関節可動域の維持・拡大 P76~P86 ※単元テスト①				杉野潤也
8回目	筋力と筋持久力の維持・増強 P87~P98				杉野潤也
9回目	筋緊張異常とその治療 P99~P109				杉野潤也
10回目	不随意運動とその治療 P110~P114				杉野潤也
11回目	協調運動障害とその治療 P115~P123				杉野潤也
12回目	感覚・知覚再教育 P123~P130 ※単元テスト②				杉野潤也
13回目	廃用症候群とその対応 P130~P136				杉野潤也
14回目	物理療法の基礎 P136~P148				杉野潤也
15回目	まとめ				杉野潤也
教科書及び参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院				
成績評価	<p>単元テスト①・②: 20点×2 期末テスト: 60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。</p> <p>単元テスト①は1回目~6回目、単元テスト②は7回目~11回目の授業内容から出題します。期末テストは全範囲ですが、単元テストと授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出題する予定です。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>本講義では、身体機能障害における治療の枠組みや考え方に加え、具体的な実践方法を学びます。これらは、それぞれの疾患を患った対象者に、根拠に基づいた治療を考え実践する上で、必ず必要となるものです。将来、適切な治療が実践できるよう意識して学んでいきましょう。実技も交えながら行いますので実施しやすいように、半袖半ズボンなどの動きやすい服装で参加してください。</p> <p>講義で学んだ知識はその日に復習をおこない、単元テストや期末テストに備えてください。ROMや筋力増強訓練などの技術に関しては、放課後や空き時間を利用し反復練習し、後期の評価実習に備えていきましょう。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>介護老人保健施設、訪問リハビリテーションを中心とする地域リハビリテーション、一般病院等の臨床現場を経験してきた。(杉野)</p> <p>経験談も交えつつ、基礎的な治療の必要性や対象者にあわせた応用的な治療の考え方、技術などを伝えていく。</p>					